

2019年1月18日  
株式会社 JERA

「(仮称) 横須賀火力発電所新1・2号機建設計画 環境影響評価書 条例環境影響評価書」における  
記述の誤りに関するお詫びと訂正について

「(仮称) 横須賀火力発電所新1・2号機建設計画 環境影響評価書 条例環境影響評価書 平成30年12月」の記述に誤りがありました。ここにお詫びを申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

1. 誤記の内容

評価書 p486 「第 10.2.4 表 リプレース前後の排出濃度及び排出量の比較」に記載しております既設稼働時（現状）及び新設稼働時（将来）の硫黄酸化物の排出量（年間値）につきまして、正しくは、それぞれ「約 8,283 t/年」、「約 1,234 t/年」と記載すべきところ、「約 4,142t/年」、「約 617t/年」と記載しておりました。なお、同表のその他の記載値に誤りはございません。

【誤】

項目		既設稼働時（現状） （リプレース前）	新設稼働時（将来） （リプレース後）	
排出濃度	硫黄酸化物（ppm）	3～4号機：90 5～8号機：84 2号ガスタービン：29	14	
	窒素酸化物（ppm）	3～5号機：95 6～7号機：100 8号機：20 2号ガスタービン：15	15	
	ばいじん（mg/m <sup>3</sup> N）	3～8号機：20 2号ガスタービン：5	5	
排出量	1時間値	硫黄酸化物（m <sup>3</sup> N/h）	494.2	
		窒素酸化物（m <sup>3</sup> N/h）	482.7	
		ばいじん（kg/h）	147	
	年間値	硫黄酸化物（t/年）	<b>約 4,142</b>	<b>約 617</b>
		窒素酸化物（t/年）	約 5,942	約 1,009
ばいじん（t/年）	約 877	約 164		

【正】

項目		既設稼働時（現状） （リプレース前）	新設稼働時（将来） （リプレース後）	
排出濃度	硫黄酸化物（ppm）	3～4号機：90 5～8号機：84 2号ガスタービン：29	14	
	窒素酸化物（ppm）	3～5号機：95 6～7号機：100 8号機：20 2号ガスタービン：15	15	
	ばいじん（mg/m <sup>3</sup> N）	3～8号機：20 2号ガスタービン：5	5	
排出量	1時間値	硫黄酸化物（m <sup>3</sup> N/h）	494.2	
		窒素酸化物（m <sup>3</sup> N/h）	482.7	
		ばいじん（kg/h）	147	
	年間値	硫黄酸化物（t/年）	<b>約 8,283</b>	<b>約 1,234</b>
		窒素酸化物（t/年）	約 5,942	約 1,009
ばいじん（t/年）	約 877	約 164		

## 2. 誤記による予測、評価への影響

以下に示すとおり、当該箇所の誤記による予測評価への影響がないことを確認しております。

- (1) 第 10.2-4 表の硫黄酸化物の排出量（年間値）について、既設稼働時及び新設稼働時を正しい数値「約 8,283t/年」、「約 1,234 t/年」とした場合においても、「火力発電所リプレースに係る環境影響評価手法の合理化に関するガイドライン」の適用条件である「大気汚染物質の排出濃度、排出量（1 時間値、年間値）が従来と同等、あるいは減少すること」に適合するという結果は変わらないと考えております。
- (2) 施設の稼働に伴って煙突から排出される硫黄酸化物の環境影響評価は、排出量（年間値）ではなく、排出量（1 時間値）を用いて風下着地濃度を予測し、環境基準（1 時間値）と比較することにより行っております。このように、排出量（年間値）は予測評価に用いていないことから、風下着地濃度の予測結果は変わらず、環境基準（1 時間値）に適合しているという評価も変わらないと考えております。

当社は、地域の皆さまをはじめ、関係各位のご理解を賜りながら、着実に計画を進めてまいります。

以 上